

■中山忠光 尊攘派公家。志士と交わって過激になり、長州藩一員として諸事件に参加したが、藩政一新で暗殺された。

なかやまただみつ

阿部正弘首座1845= 平戸藩主松浦清の女愛子を母に、\_准大臣中山忠能の七男に生まれる。

のち長兄忠愛の養子となる。

ペリー来航・1853= 8歳：

1854= 9歳：

蕃書調所・・・1857=12歳：従五位下に叙し、

五ヶ国条約・1858=13歳：侍従に任じられ、

桜田門外変・1860=15歳：\_陸仁親王(明治天皇)祇候を命ぜられた。朝幕関係が緊張を深めるに従い、父忠能の許に出入りする諸藩の志士らと交わりを持つようになり、

生麦事件・・・1862=17歳：\*朝廷内で尊攘派の勢力が台頭し、父忠能が国事御用掛に任じられると、武市瑞山・久坂玄瑞・吉村虎(寅)太郎・真木和泉らの志士と交遊するようになり、尊攘派公家として頭角を現わす。

8月18日政変 1863=18歳：\*朝廷に国事寄人が設けられ、これに任じられるが、密かに京を脱して長州に入り、官位を返上。森俊斎(秀斎とも)と改名し、下関の外国船砲撃にも参加。しかし京都の情勢が尊攘派に不利の方向に赴くのを知って、帰洛し、攘夷親征のために奔走した。折から攘夷祈願のため大和行幸が決まると、吉村虎太郎・松本李堂らの同志を率いて京都を出奔し、先鋒挙兵を計画してその首領に押され、五条代官を殺戮し陣屋を焼き払った<天誅組の乱>。しかし<八月十八日の政変>で行幸は中止となり、幕軍の討伐を受けて十津川で敗れた。そのため大坂に脱出の後、長州藩に遁れたが、<禁門の変>後に同藩内において恭順派が藩政を握ると、

禁門の変・・・1864=19歳：\*刺客に襲われ、豊浦郡延行村(山口県下関市大字延行)において暗殺された。

のち豊浦郡楠野村(下関市大字楠乃)住吉神社内の中山社に祭祀された。